

第2回 練馬まちづくりセンター運営協議会 議事要旨

日 時	平成19年6月8日(金曜日) 19:00~21:05
場 所	練馬区役所東庁舎6階 605会議室
出席者	委員 小泉秀樹会長、伊東利孝副会長、田島夏与、石井和政、谷口紀昭、 小口深志、竹谷恭子、阪西淳史、室地隆彦、宮下泰昌 (順不同・敬称略)
	事務局 石川貴洋、木谷勝、坂本裕邦、田中一広、岩崎哲也、杉崎和久、 山田真紀子

【議事概要】

- 1 委員の出席状況・傍聴者の報告
- 2 小泉会長あいさつ
- 3 石川所長あいさつ
- 4 委員紹介(田島委員、宮下委員)
- 5 事務局職員紹介
- 6 報告事項
 - (1) 平成18年度センター事業について
 - (2) 平成19年度事業計画について
前年度との変更部分および住民参加協働事業に関する質疑応答。
- 7 協議事項
 - (1) 運営協議会のロードマップ
開催スケジュールを承認。今回は、20年度の予算編成に向けた議論を行う。中長期的なセンターの計画・展望については、今後作成していく。
 - (2) センター構想と事業の現状
資料「事業の現状」の記載内容や、区民活動団体の他団体との連携の進め方等に関する意見交換。
- 8 連絡事項
次回(第3回)は、9月上旬に開催予定。

【発言要旨】

- 1 委員の出席状況・傍聴者の報告
(事務局)現在の出席委員は9名であり、室地委員は区議会の関係で遅れる予定である。
傍聴者は、ホームページで広報したが申込みは無かった。

2 小泉会長あいさつ

〔会長〕センター運営協議会が担うべき役割はまだはっきり定まってないが、走りながら決めていって、練馬のまちづくりが広く定着するように皆さんと協力していきたい。

3 石川所長あいさつ

石川所長よりあいさつ

4 委員紹介

田島委員、宮下委員よりあいさつ

5 事務局職員の紹介

事務局職員の自己紹介

6 報告事項

(1) 平成18年度センター事業について(資料1)

事務局より、前回報告以降の事業内容について説明

(2) 平成19年度事業計画・予算について(資料2)

事務局より、新規事業および前年度との変更部分について説明

〔会長〕18年度事業報告については確認していただきたい。19年度事業計画・予算についても、枠組みは概ね決まっています、細部は修正することはできるが大枠は変更できないので報告事項に入っている。何か質問は？

〔委員〕まちづくり講座やこもれびの発行回数を削減したようだが、中身を充実させるという意向か。

〔事務局〕こもれびについては、ホームページやニュースレター等の他の情報提供手段を充実させた関係で回数を減らした。まちづくり講座については、新規の受託事業が増えて、そちらの方に人材と予算を投入しなければならないので開催回数を減らしている。

〔委員〕予算額は、特に変更ないか。

〔事務局〕予算はいくつかの事業の積み上げでできているので、こもれびの経費、講座の経費だけを今一言で申し上げることはできない。

〔委員〕説明としては分かるが、回数が減れば予算も減ると思うので、もう少し分かるように説明していただきたい。

〔事務局〕資料2の6ページに記載されている普及啓発事業費の中に、こもれびやまちづくり講座の経費が含まれており、トータルで300万円ほど減っている。一方、新規の受託事業の経費として、住民参加協働事業費、調査研究事業費等が大幅に増えており、単純に比較はできないが、そちらの方に予算を重点配分している。

〔会長〕今の説明でよろしいか。

〔委員〕予算額が分かりやすく出ているので、この経費に加算したという風に説明があれば分かりやすいと思う。

〔会長〕全体的な事業方針があればよかったが、大体理解できたかと思う。

〔委員〕住民参加協働事業費が増えている。今後増えていくべきだし、望ましいことだと思う。しかし、作業に対して経費を使っているが、大事な企画やデザインなどに経費を使っていないのでは。大きな金額になってしまうかもしれないが、大事な部分なので、今後そうしたところにお金を使っていくことも考えていくといい。

〔会長〕住民参加協働事業費は、具体的にはどのように増えたのか。

〔事務局〕豊玉公園に関する練馬区からの受託事業費が増えている。

〔会長〕公園の改修事業を住民参加型でやるということか。

〔事務局〕豊玉公園のユニバーサルデザイン改修を福祉のまちづくりアクションプランの一事業として行う予定である。みんなが楽しめるように、障害者・健常者がともに参加するワークショップ形式で、どのような公園に変えていったら良いかを検討する。

〔委員〕デザインをするということか？

〔事務局〕センターとしてはワークショップを運営して進めていく。

〔委員〕あるべき姿だと思う。段階的に予算を増やしていくといいと思う。

〔会長〕報告事項については了解いただいた。次の協議事項に移りたい。

7 協議事項

〔会長〕これからセンターがどういう道筋で成長していくべきかを検討するのが、運営協議会の大きな役割だと思う。まず前回の振り返りを石川所長からお願いしたい。

事務局より、資料「前回の運営協議会の振り返り・メモ」を説明

(1) 運営協議会のロードマップ(資料3)

事務局より、資料3「センター運営協議会 年間予定表(案)」について説明

〔会長〕運営協議会を年間何回くらい行う必要があるのかについて、理事会・評議員会などのスケジュールと合わせて事務局から提案があった。ロードマップとしては、サポーター制度をいつまでにどのように検討していくのか、運営協議会がそれにどう関わっていくのかということも必要かと思うが、今回はそこまでは難しいと思われる。スケジュールとしては、基本的に提案内容で良いと思うが、いかがか？例えば、9月には、20年度に向けた事業計画や予算編成につながるような議論ができないといけない。そのためにはどのような準備が必要か、具体的にどうしていくか、といった点について意見をいただきたい。

〔委員〕運営協議会で、20年度に行っていきたいことのブレインストーミングをしたり、イメージしたりすることも考えられる。

〔会長〕そういう考え方もある。運営協議会の議論を踏まえて20年度はこんなことをや

ったらどうかということイメージできると良い。

〔委員〕夏頃から20年度実施事業の検討を始めないと、予算に反映できないのではないかと。

〔会長〕運営協議会で予算のヒントになるような議論を行うということでしょうか。

〔事務局〕9月は予算が具体的に検討されはじめる時期で、まだ枠組みが固まっておらず、方向性を示していく時期となる。事務局としても次年度の重点事業や、具体的なバージョンアップのアイデアについて、運営協議会の場で問いかけて、ご意見をいただきたい。

〔会長〕今日の運営協議会で出た意見を、20年度の計画に盛り込むことがあっても良い。

〔事務局〕当然あって良いし、今の段階でアイデアの元になるものを出していただきたい。

〔会長〕運営協議会のロードマップに、話し合う内容も盛り込まれているといい。今の書き方だとイメージしにくい。例えば、「20年度に向けたアイデアをいただく」、「この回では、センター構想に基づいた事業の実施について話し合う、参考資料は」など、話し合うトピックを書いてもらったほうが分かりやすい。また、ロードマップをホームページで公開すると良いのでは。そうした具体的な内容を公開すれば、傍聴者も来てくれるかもしれない。

〔委員〕事業計画としては、まず3か年程度の中期計画があって、そのうちの19年度、20年度の内容が見えてこなければいけない。

〔会長〕ロードマップは本来、将来を見据えた太い軸があって、そのうちどこまでを今年度やるべきかということが書いてあるものだが、所長の交代などで今回そこまで作成することができなかった。現在のところ、将来のイメージの手がかりになるのはセンター構想しかない。センター構想を元に、今後どのような歩みをしていくのか、その道筋がロードマップだと思う。今後、石川所長を中心に作成していただきたい。

〔委員〕普通の企業であれば、長期的な展望があって、その中に年度毎の目標がある。今日の資料では、長期的な展望も短期的な目標も分からない。これを見てホームページを見ようという気にならない。時代を読むということと、練馬区にどういう資源があって、どういう特徴を生かしたまちづくりをするのかがわからないといけない。例えばアニメや大学などの地域資源を活用し、行政の長期的な流れを踏まえて、ビジョンと具体的な展開を示さないと何がしたいのかわかりにくい。

〔会長〕まちづくりセンターがどう展開して、何を担うべきなのかについて、これからぜひ考えていきたい。次の議題で意見をいただければ。

〔委員〕できれば中期的な構想も含めて考えていただきたい。まちづくりセンターがまちづくり条例をもとに、どのような役割をしていけるのかという点を考慮していただきたい。

〔会長〕短期的にこなさないといけないものもあり、9月には予算編成に向けて議論するというスケジュールを示してもらった。中・長期的な構想については、今後センターから出していただいて、事業を進行しながら作っていくような状況になるかと思う。

〔宮下委員〕中・長期的計画は、センターでこれから考える。予算編成については、9月の段階ではまだ固まっていないので議論を次年度の予算に反映することは可能である。ただ、次年度に大きく方向転換するものや、政策的判断が必要なものについては、今の時期から検討が始まる。それほど大きな転換をすることを考えていなかったのが、今回の協議会では話を出していないが、前年度の報告を踏まえて、次年度は大きく転換すべきという意見がもしあれば、今の時期にいただければセンターとしてもありがたい。今日の段階で議論していただければと思う。

〔委員〕サポーター制度のイメージは次回提示するとのことだが、議題の項目としても入れていただきたい。

〔会長〕そうだと思う。何を議論しないといけないかを書いていただきたい。

〔事務局〕ロードマップの示し方、内容等を検討するという課題をいただいた。今回は運営協議会の一番基本的なサイクルをお示ししたが、この中身をわかりやすくするという宿題をいただいた。運営協議会の役割、サポーター制度その他、議論すべきことを記載してお示ししたい。

〔会長〕今回は最初のたたき台だったので、こういう議論となった。今後充実させていきたい。

(2) センター構想と事業の現状(資料4)

事務局より、センター構想と事業の現状に関する説明

〔会長〕今説明があった事業の現状について、質問・意見があればいただきたい。

〔委員〕前回の運営協議会で、各委員もまちづくり活動を色々見ないといけないという話があったので、「まっぷす」というグループの活動に参加している。上石神井まちづくり構想をセンター助成の支援を受け検討しているが、なかなかうまく進んでいない。まちづくり NPO などが中立的な立場からアドバイスや協力していくと良いのではないかと思うが、行政に対して意見を言うのはなかなか難しい。そうした中で、行政と NPO 等をつなぐコーディネーター役をセンターでやっていただけないかと思う。

〔会長〕ある行政部門かセンターが参加型のまちづくりをある地域で行うときに、その地域の NPO と区の担当部署と一緒に事業展開を行うというようなイメージか？

〔委員〕シンポジウムを開催したいと思っても、その力がないので、行政もやるべきだと思ったら協力してもらっていいのでは。

〔会長〕練馬区のまちづくり事業を、住民との協働型でできないか、ということだろう。賛成だが、センターとしてどういう協力ができるかは微妙である。

〔委員〕サポーターがそこに入って行って、行政との調整もしていけると良い。

〔会長〕NPO 練馬まちづくりの会が区の担当課長から「石神井地区のまちづくりを参加型でしたいので、中立的な立場からワークショップを運営してくれないか」と依頼を受け、地域に入って参加型のまちづくりを行ったことがある。そのときは、担当課長が必

要と判断して声がけをして、NPO が一緒に関わることができた。そのような形で、担当課として中立的組織の必要性を感じて NPO などに依頼するケースがある。練馬区の動きとしては、そういう方向で進んでいる。しかし、センターがそれについてどのような関わり方ができるかは、考える必要がある。また、センターが「まっぷす」と協働事業を行うという方向性については、別に検討すべきである。

〔委員〕「練馬みどりの機構」の組織を立ち上げて進めてきているが、センターがインキュベーター（ふ卵器）的な役割を果たしながら、いずれ機構が独立していく形で進んでいる。今言われた取組みの一つと言える。こういうことをどんどん大きくしていけると良い。

〔会長〕みどりの機構はセンターが事務局的な機能をサポートしていく形で進んでおり、そうした役割も重要と言える。「まっぷす」に関しては、活動助成の他に支援の仕組みがあるかどうか。事務局としてはどうか。

〔事務局〕センターは、今の段階では、現場に直接入っていくというよりも、色々な所で頑張っているまちづくり活動団体に対して、センターに相談にみえたらサポートするという姿勢が基本になっている。今日の話では、それより一歩先に進んでセンターがやるべきことがあるのではないかと捉えた。どの程度まで行うべきかというイメージはまだ持っていないが、センターとしての意志をもって現場の動きに何らかの形で関わっていく必要があると思っている。今の段階ですぐ対応できるものはないが、センター内で検討しているところである。

〔会長〕他の話題について、何かあれば。

〔委員〕資料 4 の進捗度について、よくわからない要因は 3 点あるのではないかと。1 点目は、センター構想だけしかなくて年次計画がないからブレークダウンしにくいことである。2 点目は、冒頭の前年度の事業報告についてであるが、行った事業内容と人数だけでは分かりにくい。意図と結果の評価をしたほうがいい。3 点目は、計画にもつながるが、センター事業の中には進捗状況が 1 マスで良いものもあれば、10 マス必要なものもあるのでは。今の段階で進捗状況を示すのは、時期尚早かと思う。

〔会長〕おっしゃる通りだと思う。例えば「どういう目的でその事業が必要で、実施した事業はこの部分に対応し、残された部分は今後こういう事業をやっていきたい」というような表になっていたら良いのでは。進捗度よりも評価の方が重要なので、評価を加えていただきたい。この話は、進捗度を 3 マスにするためには今後どういう事業をしないといけないのかという、先ほどのロードマップの話にもつながってくる。

〔委員〕数年をかけて進めていく話だと思う。今年度は何をやる予定で、それについてどうか、来年以降も続いていくものかどうか、といった点について単年度でまとめてはどうか。あくまで協議会はセンターの諮問に対して答申する機関である。7 事業に対して諮問する形もあるし、7 事業の他にこういう事業も必要ではと提案するような諮問の仕方もある。そうした諮問ができるような資料を作っていたらいいと思う。

〔事務局〕昨年センターがスタートして、まだ未着手のものもあるが、これだけのものを動かして1年間走ってきた。今のご指摘はもっともだと思う。我々としては構想に基づいて事業を行ってきた中で、着手できたものを1マス、事業が動き区民の方々から手ごたえがあったりしたものを2マスで示している。1年目はそれで精一杯だったが、2年目は何をすべきか、どういうことを狙っていくべきか、1年目にやってきたことをどのように仕上げていくかを考えていくのが我々の宿題と言える。センターの存在感をどう高めていくか、頼りにされるセンターになるにはどうするか、センターがしていることをどのように知ってもらうか、そういう部分について意見をいただければと思う。情報発信をバージョンアップする、響くものにする、接点が無い方にセンターのことを知ってもらう機会を作る、メルマガを送るリストを増やすなど、具体的に何をしたら良いかご意見をいただきたい。

〔委員〕活動助成の公開審査会などで審査員から、もっと他の団体とつながって活動できないかというアドバイスをいただくが、他の団体がしていることは分かっても、「明日から一緒にやりましょう」とは、なかなか言えない。コーディネーターやプロデューサーといった仕切り役の人が必要である。そういう人を我々も、センターも育成していかないといけない。若い人達を巻き込むためには、どういう魅力を作るか。ホームページも楽しくないとアクセスしない。センターも、行ってみようかと思えるような魅力的なものにする。こもれびや封筒もりサイクルマーク「R100」を入れると良い。細かい点にも配慮していただきたい。

〔委員〕まちづくり相談や専門家派遣を行っていることと、行政とのコーディネートが必要という話を踏まえると、まちづくり相談から一歩踏み込んで、活動グループ間のニーズを合わせるような部分まで踏み込むのかどうか。個人的にはそこまで踏み込むと面白くなってくるのではないかと思う。

〔委員〕まちづくりに興味を持っている人達が、「練馬まちづくりのWAメッセ」で交流をしたが、「まちづくり」というとメンバーがいつも限られてきてしまう。そこからどう広げていくか。自分たちのまちづくりグループも、今後どうしていくかを考えた時に、協議会を作ってもっとたくさんの人を巻き込んでいきたいと考えている。その課題について、センターと私たちと両方で考えて、輪を大きくしていきたい。

〔委員〕センター構想の中にあるプラットフォームの構築に情報発信のヒントがあるのでは。プラットフォームは非常に大事だと思う。メルマガも大事だが、地域SNS(ソーシャルネットワークサイト)などを使って、なるべく多くの人に見てもらいたい。プラットフォームは単なるデータベースではなくて、まちづくりに関わりたいがその方法が分からない人達をいかに育てていくかという視点が必要では。

〔委員〕構想に書いてあるプラットフォームは情報についてだが、人材のプラットフォームを作っていくかといけない。有能な人材を集めて、いかに機能させていくかが重要である。

〔会長〕団体や人材、活動エリアのデータベースがあるといい。私の大学の研究室のソフトを活用してうまくプロットしていけるのでは。

構想に書かれたセンター事業に関しては、既に着手しているものがほとんどで、無印のものも何らかの形で今年度中に着手する形となる。石川所長が言うように、とりあえずスタートを切るとというのが今までのセンターの動きだった。これからは、到達目標と、ここまで出来ていて、次年度はここまでいきたいといった長期計画・中期計画・単年度計画を、一気にできなくても仕方ないが、じっくり考えて構想する時間と体制を取っていただきたい。

時間がきているので、他に何かあれば。

〔委員〕センターの人材はこれから充実していくのか、それとも今の人員の中でやっていくのか。人員体制を年度毎に組み替えていく自由度はあるか。

〔事務局〕人材はセンターにとって重要だと考えている。現有体制は、専門性、経験など様々な人が集まっており、まだ眠っている才能がある。今のスタッフの能力をいかに引き出すかを考えたい。センターの事業が多くなり、人員が足りなかったり、専門職がいなかったりという話になれば、積極的に人材の補強も考えたい。

〔会長〕センター職員の能力の活用という話とは別に、サポーター制度で足りない部分を補っていく話もあり、この運営協議会で知恵を出していく。区の関連部局の業務委託などの協力、企業からの寄附による金銭的援助、サポーター制度、企業の協力会員制度なども、具体的に考えていかないといけない。そのためにも、中・長期的なビジョンを、センターで考えていただきたい。また委員の方も、予算への影響も考慮しながら、こういう事業もあり得るのではないかと、といったアイデアを出していただきたい。中長期的計画の参考になるかもしれないので、次回を待たずに皆さんから事務局に提案していただきたい。

〔副会長〕話を聞いていて、相互にリンクしている話もあった。今日の会議は4月に行われる予定であったことや、宮下委員の話などを総合して考えると、20年度の予算に向けて次回の協議会は重要となる。9月、12月までに我々が感じる事を持ち寄って良い議論が出来れば、次年度につながると思う。委員も情報交換して協力していきたい。

〔会長〕本日は以上で終了し、事務局から連絡事項をお願いしたい。

8 連絡事項

- ・ 次回の会議は、9月上旬に開催予定。日程は改めて調整する。
- ・ 7月29日にまちづくり活動助成の企画コンテストが行われる。是非、来場を。
- ・ 7月2日から、センターの場所が少し移動する。(東庁舎6階は変わりなし。)